

特別座談会

「輝け！成蹊女子」

スポーツの振興に力を入れる大阪成蹊学園では、国内外で活躍する選手が数多く育っています。中でも目立つのが女性アスリートの躍進。今年度、びわこ成蹊スポーツ大学には、2人のシンクロナイズドスイミングのオリンピックメダリスト、奥野史子氏と田中ウルヴェ京氏が客員教授に着任されました。嘉田由紀子学長を交えた3人の女性の皆さんに、学生時代からキャリアを重ねてこられた経験を踏まえ、石井茂理事長司会のもと、和やかな雰囲気の中、若い世代へのアドバイスなどを語り合っていました。

人として、女性として
自分の信念を貫く

石井 奥野さんはバルセロナ（1992年）、田中ウルヴェさんはソウル（1988年）オリンピックで銅メダルを獲得されました。どちらも大学在学中の快挙でしたね。勉強と競技を両立された学生生活はいかがでしたか？

奥野 オリンピックは同志社大学2年の時です。出場に向けてヨーロッパ遠征や合宿が続いていましたので、1年の時はほとんど大学へ行けず、4年では卒業できないかなと心配でした。でもオリンピックが終わってからは勉強を頑張り無事に卒業できました。小学1年からシンクロを続けてきた私には、大学は、それまで自分がいた場所とは違う世界の人々であふれていました。いろんな環境、さまざまな道に進みたい人たちとの出会いは宝物となり、世界が広がりましたね。主人（朝原宣治氏＝陸上競技指導者、北京オリンピック銅メダリスト）と出会ったのも大学キャンパスでした。

田中ウルヴェ 現役時代は日本大学文理学部体育学科の学生でした。その後、アメリカの大学院、今年4月からは慶応大学院博士課程で学んでいます。18歳で大学に入った時、実は別の大学で哲学や心理学を専攻したくて、体育学科は第一志望ではありませんでした。でも入学したからには4年間を無駄にしたくない、せっかく体育学科なのだから、そのことを有利に使うと考えて、オリンピックでメダルを取るための練習を最優先にしながら、大学での勉強もしました。

石井 田中ウルヴェさんは著書に「オリンピックに出られるなら死んでも良いと思った」と書かれています。そこまで自分を駆り立てたものは何ですか？

田中ウルヴェ シンクロももちろん好きなのですが、私は「勝つ」ことが好きなのです。それは、自分の振り付けや演技が思い通りにできた時の達成感とも言い換えられます。「自分が満足できるもの」を求めて頑張る。あとは、シンクロのために犠牲にしてきたことがあるので、メダルを取らなければ折り合いがつかない、というところもありましたね。

奥野 私も同じように思いました。このまま死んでもおかしくないと追い込まれるまで練習をしていましたね。これでメダルが取れなければ、やってられない、と思うほど。オリンピックは確かに大変



嘉田由紀子
びわこ成蹊スポーツ大学 学長
前 滋賀県知事

子どもの笑顔輝く未来を目指し、
政治の道へ

な舞台ではありますが、そこに行くために一步一步階段を上ってきて、その延長線上なので、当事者としてはその舞台にいても冷静なのです。後から考えて、よくあんな場所にいたな、と思うくらいです。

石井 お二人とも今はコメンテーターとして活躍されながら、教育の分野でも指



奥野史子
びわこ成蹊スポーツ大学客員教授
シンクロナイズドスイミング
バルセロナオリンピック
銅メダリスト

大学時代の出会いが
生涯の宝物に

にやる人です。子どもの成長を自分自身が見たいのでしょう。主人はドイツやアメリカでも長くアスリート生活を送り、自分がどう行動し、どう走ったかがすべてという世界にいたせいか、自分にとって何が大事か、という価値観で生きているようです。

田中ウルヴェ 夫の母国フランスで学ん



田中ウルヴェ京
びわこ成蹊スポーツ大学客員教授
シンクロナイズドスイミング
ソウルオリンピック銅メダリスト

「自分が満足できるもの」を
求めて頑張る

見えてこないと思い直し、どうすれば楽しめるか、何を求められているかを考えながら仕事に向かうと、風景は違ってきました。どんな場にも学ぶことは必ずあるはずですよ。

田中ウルヴェ 私は、「型や枠にはまらないで」と伝えたい。抽象的になりますが、まず目の前の木を見て、次に森を見て、できれば、木も森も見ている自分を見てほしい。それが「考える」ということ。人生は面白く、成功の形は一つではなく、「なんでもあり」です。だからこそ、まず目の前をしっかり見て、さらに複数の視点を持つことが大切。ことに大学生には「ちゃんと悩んでほしい」がメッセージです。



石井茂 理事長
学校法人大阪成蹊学園

「なりたい自分」をイメージし
人間力を身につけよう

導的な立場におられます。滋賀県知事（2006～14年）を務められた嘉田学長は、最初に立候補された時、周囲から反対されたとおっしゃっていました。それでも信念を貫かれた力は何だったのでしょうか？

嘉田 京都大学1年の時に探検部でアメリカへ行き、一杯の水、一皿の食べ物、環境の大切さを知り、研究を始めました。知事の立候補を決めたのは、長年、琵琶湖研究者として蓄積してきた成果を政治に活かすことで琵琶湖の環境改善ができ、税金の無駄遣いをだし、また子育てをしながら仕事を続けてきた経験を、子どもの笑顔が輝く未来社会へとつなげられると確信を持ったからです。この地域をよくしていこうという方たちが応援してくださるに違いない、と。生まれたばかりの孫の顔を見て背中を押されました。

石井 皆さん、偉業を成し遂げられて今日に至るチャレンジの過程で、女性ならではのご経験もあったかと思います。奥野さん、田中さんもお子さんを育てながら仕事を続けていらっしゃるんですね。周りの人の意識、協力について、どう感じてもらえますか？

奥野 第一子の妊娠はアメリカのシルク・ドゥ・ソレイユでパフォーマーをしていた時で、妊娠7カ月までショーに出ていました。海外では妊婦が敬愛の目で見られていると感じたのに対し、8カ月で日本に帰って来た時は、目をそらされる雰囲気があり、海外と日本の違いに戸惑いました。いま子どもは小学生から幼児まで3人。主人は子育てを自然に一緒

だことはたくさんあります。子育てに關していえば、固定概念をはずすということです。「親としてこんな子育てをするべきだから、フルタイムの仕事ができない」、あるいは「課長職になったらこんなふうに働かなければならないので、育児はできない」などというのは、勝手な思い込みです。我が家の子育てのルールは夫と2人で話し合い、自分たちで軸を作ります。

嘉田 社会から求められる価値観に自分を合わせる必要はないということです。私は、女性が活躍するためには、多様な価値観を認める社会であるべきだと考えています。女性の存在そのものを認め、愛する社会こそ、女性がいきいきと本来の力を発揮できるはずですよ。

女子力、人間力を上げるため
必要なことは

石井 大阪成蹊学園の女子学生が、女子力、人間力を上げるためには何が必要でしょうか？ 学生たちへのメッセージをお願いします。

奥野 今いる環境がたとえ理想と違って、「合わない」と否定的にとらえるのではなく、「ではどう楽しむか」を考えてほしいということです。少し経験を話しますと、大学を卒業した時に就いた仕事は、テレビのスポーツコメンテーターでした。声をかけていただきチャンスだと思って始めましたが、実は話すことも人に何かを伝えるのも当時の自分には大変で、1年くらいは「やりたくない」と葛藤がありました。でも、このままではいけない、ある程度やってみないと何も

嘉田 「なりたい私、自分になる」という願いを持って出発してほしい。自分の周りに、例えば母親、姉妹、友人、教師、有名人、本やドラマの登場人物の中に、なりたい自分、ロールモデルを見つけてください。次に、その人生について学びながら、ではどうすれば自分がそうなれるか、実践的なキャリアプランニングを行います。その際、ゼミの教員や就職に関わる職員ら多くの人たちがアドバイスできるサポート体制が、大阪成蹊学園にはできています。私たち教職員は、学生一人ひとりと対話し、人間同士としてぶつかり合う対等な関係を結ぶ教育をめざし、日々努めています。在学生の皆さんには、自己イメージ、ロールモデルをしっかり描き、生きていく足場、人間力をこの大阪成蹊学園で育てていただきたいと思っています。



大阪成蹊短期大学

短期大学の飛躍・充実に向けて —学長就任のご挨拶—

学長 木村 一 信



大阪成蹊短期大学の学長に就任して、3か月余りが経ちました。この間、入学式やオリエンテーションなどで、学生たちの顔を遠くからは見ていましたが、す

ぐ近くで話をしたりする機会や時間はあまり得られませんでした。ようやく、就職のための学内推薦の面接をしたり、学生が実習で作るお弁当を買って食べたりする折に、少しずつ短期大学の学生の顔が見えてきたようです。

さすがに、歴史と伝統のある短期大学だと感じたのは、挨拶をする学生の姿でした。これは、全学で繰り広げられている「マナー向上運動」の一つということで、大阪成蹊学園の良さを間違いなく表しています。また、授業中の態度もそれに連なっていると聞いています。私は、後期に1コマの授業を担当する予定ですので、まだ実感としてはありませんが、教室での学生との話し合いが楽しみです。今から24年前に、私は、本短期大学の

国文学科(現在のグローバルコミュニケーション学科)の非常勤講師として授業を持っていました。高校時代の友人が短期大学の教員として勤めていて、その彼から頼まれたからです。本務校での勤めが忙しくなって、2年間ほどしか来ることが出来なかったのですが、それから四半世紀近く経って、また本学に勤務することになるとは思ってもいませんでした。いくつかの縁につながれて大阪成蹊短期大学に赴任したのだと、大げさに言えば、人生の不思議さを感じています。

その頃の大学や短期大学からすると、現在の日本の高等教育機関を取り巻く状況は大きく変化しています。大学や短期大学を見る社会・世間の目は厳しくなっていて、それだけ学生の卒業後に役立つ実践的な能力が期待されていることの表れでもありましょう。短期大学で学んだことが、実社会において役立つということ、また、そこで自分の身につけた学修、知識、知見、資格などが実際に生かされていくということ、これらは学生にとって何ものにも代えがたい喜びであり、ここに短期大学で学ぶことの意味があるのでしょう。

教える側の教員の意識や考え方、姿勢も、社会や時代の要請に連れて変化を見せれています。教室で学生がどのような反応をしようとも、一方的に講義をしたりする教員はほとんどいなくなりました。授業運営に工夫を凝らし、どのようにすれば学生が興味を持って授業に参加し、自主的に課題を解決する能力を養っていくことが出来るかと、考えて授業に臨んでいます。また、教員、職員を問わず、学生が正課・課外を通して大阪成蹊学園の建学の精神にのっとり「人間力」をいかに身につけていくことが出来るか、ということをサポートするべく努力を続けています。

まだ、勤務をし始めてから日は浅いのですが、こうした学園全体が一体となって、大学、短期大学、高等学校、幼稚園の進むべき方向を力強く目指している大阪成蹊学園の一員になったことに喜びと緊張とを覚えているこの頃です。

さらに、平成28年4月から大阪成蹊短期大学は飛躍的な教育改革を実施いたします。それにより、短期大学のさらなる充実・発展に向けて教職員一同とともに力を尽くしていく覚悟です。

短期大学の学科改編 ～発展する大阪成蹊短期大学～

生活デザイン学科、調理・製菓学科、栄養学科を新設 幼児教育学科の入学定員を関西最大規模に

大阪成蹊短期大学では、総合生活学科の学びをより分かりやすく、それぞれの専門性が一層際立ち、質の高い教育が展開できるように、平成28年4月、生活デザイン学科(入学定員50人)、調理・製菓学科(入学定員120人)、栄養学科(入学定員120人)の3学科へと改編します。さらに、幼児教育学科の入学定員を60人増やし300人として、保育系の学科では関西最大の学科とするなど、男女共学の総合短期大学として日本一の規模と多彩な学びでさらに大きく飛躍します。

まず、新設3学科の基となる総合生活学科は、昭和26年の開学と同時に開設された家政科の流れを汲んでおり、本学で最も伝統ある学科のひとつです。衣・食・栄養を学びの中心に、生活デザインコース、食物コース、栄養コースを設置し、現在に至るまで、様々に教育の充実を図ってきました。学生募集において、衣・食・栄養のプロフェッショナルをめざしたいと本学を希望する高校生が年々増えており、総合生活学科は人気の高い学科の一つです。また、昨今では、この3つのコースに対する社会からの人材需要はますます高まり、それは高い就職率(平成26年度卒業生実績:100%)となって表れています。高い専門性と人間力を身につけた多くの卒業生を輩出してきた本学に対する社会の期待はますます高まっています。

こうした多くの高校生の希望に応え、

また、地域や社会から求められる人材を一層充実した学びの下で育成するために、教育体制、施設設備を更に充実し、各コースを学科にする構想が生まれました。特に、調理・製菓学科では、最新設備を導入した製菓実習室を新設し、一流のパティシエを教員に迎え、実習先も有名菓子店から全面的に協力していただくなど、万全の体制を整えました。

次に、「教育の成蹊」として、長年に亘り、保育者養成の実績を積んできた幼児教育学科においても、教育体制のさらなる充実を図り、入学定員を増やすこととしました。本学の所在する関西地域だけではなく、広く社会において保育人材の不足が叫ばれています。一方で、保育士や幼稚園教諭をめざし、本学幼児教育学科を志願する高校生の数は年々増加しています。3学科の新設と同様に、地域、社会からの人材需要の高まりと、高校生の進学希望に可能な限り応えられるように、幼児教育学科の入学定員を現行の240人から300人にすることとしました。関西では、最大規模の保育系の学科となります。

こうした短期大学改革によって、短期大学全体の入学定員は、現行の660人から100人増えて760人となります。教育内容の充実を図りながら、今後も多くの学生を育て、社会へと輩出し、短期大学としての役割を果たしていきます。



大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 初の合同入学式をグランキューブ大阪にて挙行



大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学の平成27年度入学式が、大阪中之島の大阪府立国際会議場「グランキューブ大阪」にて4月3日に挙行されました。例年、本学の入学式は相川キャンパス体育館にて行われてまいりましたが、今回初めての学外会場での式典となり、また、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学の合同開催となりました。

グランキューブ大阪のメインホール1階席は、大阪成蹊大学、大阪成蹊短期大学の新生で埋め尽くされ、1000席を超える2階席も保護者の皆様でほぼ満席となり、学園関係者ならびに多数のご来賓の皆様にもご参列いただき、盛大な入学式となりました。

国際会議場も催される会場とあって例年にも増して厳かな空気が場内に張り詰め、新生の心地の良い新鮮な緊張感が高まる中、オーケストラと混声四部合唱による学園歌の紹介とともに式典が始まりました。

武蔵野実大学学長ならびに木村一信短期大学学長による入学許可と式辞に続いて、新生代表として大阪成蹊大学教育学部中村結花さん、大阪成蹊短期大学幼児教育学科河村楓さんの新生宣誓が行われました。

続いて、石井茂理理事長から「学園の建学の精神を実践し、人々から信頼され、慕われる人になってください。また、忠恕の心を持って人々と交わり、豊かな学園生活を送られることを希望します」と新生に祝辞が述べられた後、寺家照二後援会会長より記念品の贈呈が行われ、新生を代表して大阪成蹊大学芸術学部美馬匠吾さん、大阪成蹊短期大学総合生活学科栄養コース三木楓さんが記念品を受領しました。

また、式典の中で在学生の表彰が行われ、新生達は先輩の学業や課外活動等における活躍に拍手を送っていました。最後に、総勢38名のオーケストラ「アンサンブル・アッサンブラージュ」の皆様による新生歓迎のコンサートが催されました。普段なかなか直接耳にすることのない壮大なクラシック音楽を大ホールで堪能しました。このコンサートには新生達に、「先人たちが残してくれている偉大な産物に興味を抱き、そこから人生の糧になる知識や知恵、人間としての魅力を吸収してほしい」という想いが込められており、新生達は喜びと緊張の表情を浮かべて、これから始まる自分たちの大学生活に一層の期待を膨らませていました。



大阪成蹊大学

教育学部

教育学部開設から1年—1期生の育ち—

教育学部1期生が進級し、2年生になりました。今春から初等教育コースと幼児教育コースに分かれての授業。小学校教育や幼児教育(保育)の専門的な授業が増加し、それぞれの進むべき道へ、夢の実現へ向かって、一歩ずつ、一歩ずつ、歩み始めました。

5月からは教育インターンシップが始ま



り、初等教育コースの学生は小学校で、幼児教育コースの学生は幼稚園で職業体験をさせていただいています。教育インターンシップでは、「一日中、立ちっぱなしだった。でも、授業を見ていたら、先生の指導で子どもがいきいきと反応していて、担任の先生のことを尊敬した」、「たいへんだったけど、子どもがすごく可愛かった」、「子どもと鬼ごっこをした」、「子どもは無尽蔵な体力を持っている。一緒に遊んだら走りで負けた」など、さまざまな体験を伝え合っています。教育の現場で得た、たくさんの気づきを大切にして、それを大学の理論と統合させながら学びを深め、育てほしいと願っています。

～松竹芸能と共同で笑育を展開中～

お笑い教育を変える!

現在、教育学部では松竹芸能と共同で「お笑いを通して表現力やコミュニケーション能力の向上をめざす授業」の開発・研究を実施しています。

エデュテイメントという、教育と娯楽を合わせた「楽しみながら学ぶ」という意味の造語があります。

松竹芸能は、すでに「お笑い」と教育をコラボさせ授業を実践する「笑育(わらいく)」という「エデュテイメント」の1つの手法に着手しており、今年度は、松竹芸能の所属の若手漫才師が授業を行うというスタイルで、大阪府立金岡高校の総合的な学習の時間で1年間この取り組みが行われています。

教育学部ではそのカリキュラム作成や授業の提案を担当しています。



この取り組みは、今年度から始まりましたが、すでに新聞・テレビ等のマスコミが取材に来るなど世間の注目度が高く、今後、「笑育」を含めた「エデュテイメント」の手法は教育界に浸透していく教育ツールの1つの方法であると確信しています。

教育学部では「エデュテイメント」により、「楽しくわかる授業」を研究するだけでなく、いじめ・不登校等の教育問題を解決する方法も模索し、その得られた成果をより広範な社会貢献へと繋げていくことを目指しています。



大阪成蹊大学

芸術学部

先進的な授業「課題解決型デザイン学習」で環境教育教材「デジタル紙芝居」開発



次世代環境教育教材贈呈式



「デジタル紙芝居」を紙の絵本にするためにインターネットで資金を募る「クラウドファンディング」に挑戦

～芸術学部ビジュアルデザインコース2年生の取り組み～

美しい環境を次世代に引き継ぐため、保育所や幼稚園、小学校などで環境学習が行われています。誰もが手軽に使用することができる環境教育教材の必要性が教育現場から出ていました。ネット環境を使った環境教育教材の製作、そしてモノを大切にすることや、街を美しくすることをテーマに、大阪成蹊大学芸術学部が京都府長岡京市と連携協定を結び、全国で使える子ども向けの環境学習教材「デジタル紙芝居」5作品を制作しました。

環境問題は世界的な課題。私たちの「想い」を絵本にして、世界中の子どもたちに届けたい!

保育園や小学校の出前教室で「どうして大人は地球を汚すのだろう?」と疑問を持つ子どもたちがいる一方で、世界には本を手にすることが難しい子どもたちもいます。絵本は言葉の壁を越え、世界中の子どもたちを笑顔にすることができると考え、長岡京市に協力してインターネットで資金を募るクラウドファンディングへ挑戦しました。デジタル紙芝居をもとに、日本語と英語で二段表記した絵本を制作し、完成した絵本は長岡京市内だけでなく、紛争や貧困などで本を手にする機会の少ないアジア地域の子どもた

ちに届けます。クラウドファンディングへのチャレンジは、全国のサポーターより支援いただき目標を達成できました。今回の取り組みは、授業が終了してからでも継続してプログラムが進行し、行政との連携に留まらず、学校現場、子どもたち、全国のサポーターから支援を受けるなど、想像以上に授業が発展していきました。次年度もこのプロジェクトは継続し、次世代環境教育教材のスタンダードを目指します。



芸術学部 造形芸術学科長
ビジュアルデザインコース教授 門脇英純
芸術学部ビジュアルデザインコース2年生

京都府長岡京市
官学連携次世代環境教育教材開発プロジェクト

女子陸上競技部

創部4年目 チーム一丸
世界へ勢い増す

“ピンクの旋風”



(写真提供: 月刊陸上競技)

昨年、6月の日本選手権では54m23で3位、9月の日本インカレでは56m55を投げ2位という活躍を見せたやり投げの山内愛(マネジメント学部 スポーツビジネスコース3年)は、今年、4月に広島で行われた織田記念で56m94を投げ2位、5月の第92回関西学生陸上対校選手権大会では、日本歴代7位の58m76の自己新記録で優勝し、最優秀選手に選ばれました。6月には、中国・武漢で行われた第21回アジア陸上競技選手権大会に日本代表として出場しました。

また、7月8日(水)～12日(日)に韓国・光州で行われる第28回ユニバーシアード競技大会の日本代表選手に選出されました。6月9日に学内で行われた壮行会で、山内選手は「目標は自己ベスト更新です。記録と順位を狙い、思い切った投げをしたいと思います」と意気込みを語りました。

ルーキーの青山聖佳(マネジメント学部 スポーツビジネスコース1年)は、4月の

織田記念で400mを制し、5月2日～3日にパハマで行われた第2回世界リレー選手権の日本代表に選出され、4×400mリレーの1走を務めました。

5月14日(木)～17日(日)にヤンマースタ



(写真提供: 月刊陸上競技)

ジアム長居で開催された第92回関西学生陸上競技対校選手権大会。創部4年目でチーム一丸となって戦った結果、総合2位に輝き、4×100mリレー(柴崎玲香-中村水月-島岡未奈実-青山聖佳)では、45秒25で優勝し、関西学生新記録を樹立しました。

「Team SEIKEI」は、9月にヤンマースタジアム長居で開催される日本インカレでの『総合優勝』、『リレー制覇』に向け、ますますチーム一丸となって練習に励んでいます。



☆第92回関西学生陸上競技対校選手権大会 成績

(写真提供: 月刊陸上競技)

種目	順位	記録	名前(学年)
100m	1位	11秒84	中村水月(2年)
	2位	11秒86	青山聖佳(1年)
	5位	11秒99	柴崎玲香(3年)
200m	1位	23秒99	中村水月(2年)
400m	1位	54秒34	青山聖佳(1年)
	5位	56秒54	島岡未奈実(2年)
	6位	56秒89	吉見美咲(3年)
100mH	3位	13秒76	上田繭(4年)
4×100mR	1位	45秒25 (関西学生新記録)	1走 柴崎玲香(3年)
			2走 中村水月(2年)
			3走 島岡未奈実(2年)
			4走 青山聖佳(1年)
4×400mR	5位	3分46秒55	1走 酒井里桂(4年)
			2走 吉見美咲(3年)
			3走 中村水月(2年)
			4走 伊藤里帆(1年)
走幅跳	2位	6m01	辻本愛莉香(2年)
	3位	6m01	末永成美(3年)
	8位	5m63	河瀬真央(1年)
三段跳	3位	12m14	永山優(3年)
	7位	11m86	清水ちはる(1年)
砲丸投	2位	13m94	山内愛(3年)
やり投	1位	58m76	山内愛(3年)
	6位	48m83	田中来夢(1年)
七種競技	4位	4509点	田中来夢(1年)
女子最優秀選手 山内愛(3年)			



大阪成蹊大学

マネジメント学部

平成28年4月

スポーツマネジメント学科を新設

平成28年4月、大阪成蹊大学マネジメント学部、スポーツマネジメント学科(入学定員90人)を新設します。これまでのスポーツビジネスコースを学科に昇格させ、一層充実した学びを実現するねらいです。

平成32年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることとなり、我が国においても競技スポーツへの関心



は急速に高まっています。また、健康への意識の高まりから、男女を問わず様々な世代で、健康のためにスポーツに取り組む人の数が増えてきているように、スポーツが人々の生活により身近な存在へと変わってきています。このようにスポーツへの関心が社会全体で高まっていくにつれて、スポーツ産業で活躍することのできる人材の育成が大きな課題となりつつあります。

例えば「スポーツ用品メーカーなどのスポーツ関連企業で開発や企画したい」、「クラブチームの職員としてチームの運営に携わりたい」など、プレイヤーとしてではないけれども、ビジネスやマネジメントの領域からスポーツの発展を支えたいと考える高校生は、本学スポーツビジネスコースへの志願者の動向に見られるように、年々増加しています。

以上のような、社会から求められる人



材を育成し、また高校生の希望に一層応えるため、スポーツマネジメント学科を新設します。

学科を新設するにあたり、スポーツ産業で活躍するために欠かせない、経営や企画、管理、運営などの専門的な知識の基本を身につけられるよう教育課程を編成することで、学びの内容を一層充実させる予定です。また、スポーツ関連企業やクラブチームなど、実際のスポーツ産業の現場へと飛び出して、現場で生じている課題を発見し、チームでアイデアを出し合いながら解決策を考え、実行するなど、実践的な力を身につけられる授業

を充実させていきます。さらに、びわこ成蹊スポーツ大学との教育連携を図ることで、スポーツマネジメント学科で、中学校教諭二種免許状(保健体育)の取得を可能にし、資格取得の面からも新たな魅力を作りました。また、びわこ成蹊スポーツ大学の学生とスポーツの価値を高めるような取り組みについて一緒に考え、企画し、実践する機会を設けるなど、学びの連携を深めていきたいと考えています。新学科でのこうした学びを通して、スポーツ産業の未来を切り開き、スポーツの発展を支えることのできる人材を育てていきたいと考えています。

高等教育研究所

教学改善へさまざまなアクションプランを提供



昨年、理事長・総長を議長とする「教学改革会議」が発足し、全学的教育改革推進機関としてこの「高等教育研究所」が設立されました。この4月に武蔵野實所長、木村一信副所長をはじめ新任の専任教員5名が着任し、本格的な活動がスタートしました。初々しい、活動的な5人の研究員達が日々研鑽に励んでおります。5名とも全て異なるキャリアの出身でもあり、お互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら職務に邁進しています。

高等教育研究所は今まさに大学・短期大学に求められている教育改革の先陣を切る部隊です。人間力育成を目指す教育手法の推進を目的として、全ての授業において、双方向の授業、集団的学習、PBL等を実施する授業改善計画の提出や、授業改善に結び付ける評価や手法の策定を全学的に取り組み、様々な「教学改善のためのアクションプラン」の提案・実践を行って参ります。

現在、具体的には 下記の5項目をアクションの柱とすることを検討しております。

- 1 教育方法の抜本的な改善
- 2 カリキュラムの再検証と科目間・課外学習との連携強化
- 3 学生がその学習成果を全学レベルで発表する場の提供
- 4 教職員の評価・研修制度の充実
- 5 事務部門・各センター等、教職員間の更なる紐帯強化

学園の教育改革は待った無しの状況で

す。大学・短期大学における高等教育のあり方が、今問われています。昨今、政府の教育再生実行会議は「職業に結びつく知識や技能を高める実践的なプログラムを大学に設ける」との提言を国に提出しました。アカデミックな教育課程に偏りがちな大学を変革し、経済界・実業界が求める「人間力」を持った人材を大学で育ててほしい。提言では従来型の大学での学び、即ち、教養を高め、人生を豊かにするための学びの府としての大学から実学・実践を重視した高等教育機関への転換を求めているのです。

高等教育の現場で、大学は学生とどのように向かい合っていくのか。学生が持つ「分かろうとする力・学ぼうとする力」、いわゆる、根源的に持つ能動的な「学びたいという心」にどう対応していくのかが問われています。教える側が変われば、教わる側も変わる。高等教育研究所はこの教育改革という難題に正面から立ち向かい、教職員・学生と協働・連動しながら積極的に新たな試みにチャレンジして参ります。

高等教育研究所 教授 諸熊 建次



就職に強い大阪成蹊

一人ひとりに個別サポート

2015年3月大阪成蹊学園卒業生の就職率が確定しました。相川キャンパスの就職率(就職者数/就職希望者数)は大阪成蹊大学では97.5%、大阪成蹊短期大学では99.2%となり、今年度も多くの学生の進路希望を実現することが出来ました。また、就職希望率(就職希望者数/卒業者数)は大阪成蹊大学では85.0%、大阪成蹊短期大学では92.4%となりました。これは全国平均(四年制大学72.7%、短期大学78.8%(文部科学省調査))の数値を大幅に上回るものであり、本学学生の就職に対する意欲の高さが表れています。

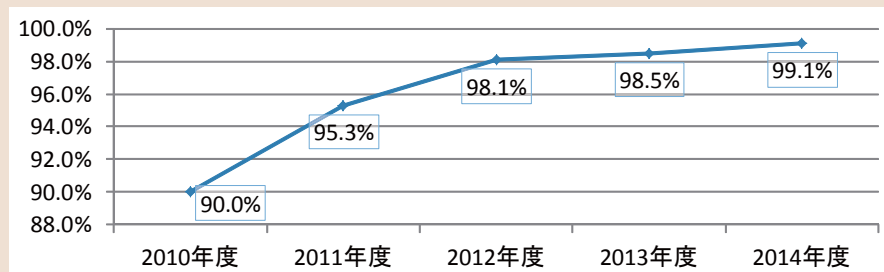
大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学では様々な就職サポートを行っています。企業が採用説明会・採用選考を開始する時期に学生がスタートダッシュを切ることが出来るよう、早い時期に「就活キックオフセミナー」や「就活本格化セミナー」を開催し、就職活動の流れを理解し、意識を高めていきます。そして各学部・学科ごとに就職部担当スタッフを配置し、一人ひとりと向き合いながら丁寧な個別サポートを行っています。学生は就職活動を進めながら定期的に就職部を活用しており、昨年は就職活動終了までに四生は1人あたり約21回、短期大学生は1

人あたり約13回の面談を就職部で実施しています。企業と学生との接点も豊富で、「学内企業合同セミナー」は2ヶ月に1度、「学内企業個別セミナー」はほぼ毎週開催しており、昨年度は年間約200社の企業が説明会に参加し、これらのセミナーから93名の学生が内定を獲得しました。

びわこ成蹊スポーツ大学においても万全の体制で就職サポートを実施しています。2015年3月卒業生の就職率は99.6%、就職希望率は88.8%となり、企業や公務員、教員として多くの優秀な学生を社会に送り出すことができました。6月6日(土)には大阪成蹊大学・びわこ成蹊スポーツ大学・大阪成蹊短期大学の合同企画・運営による「学園内企業合同セミナー」を相川キャンパスにて開催し、約400名の学生が参加しました。参加企業50社のブースを図書館棟1階～3階に設け、学生は興味のある企業のブースを自由に訪れて話を聞き、業界・企業に対する理解を深めました。

今後も様々な学びのフィールドを持つ人々の特徴を活かし、大阪成蹊学園の総力を結集して一人ひとりの「なりたい私に、なろう」を実現できるよう、様々な就職支援施策を展開していきます。

▼大阪成蹊学園 就職率推移





びわこ成蹊スポーツ大学

教職員が一丸！ ブランド力 UP!

私は、副学長 兼 スポーツ学部長を拝命しております豊田則成(とよだのりしげ)と申します。大阪成蹊学園にはびわこ成蹊スポーツ大学開設時の大学設置準備室の頃から

お世話になっております。先般、びわこ成蹊スポーツ大学は、定員増(収容定員の変更：一学年280名→360名)を文部科学省に申請し、認可されました。昨今、大学氷河

期と称されるご時世にあって、びわこ成蹊スポーツ大学の学生募集は、開学以来、一貫して好調を維持して参りました。それは、大阪成蹊学園の支援のもと、本学の教職員が一丸となって「日本で唯一のスポーツ大学のブランド」を作り上げてきたことを意味します。また、ここ数年の入学希望者数は右肩上がりで増加しており、上記の定員増の実現が可能であると判断するに至りました。学内には、将来構想委員会を立ち上げ、「もっと良い大学」を目指した中長期計画を立案するという目論見もございます。言わずもがな、現代は変革の時代です。

開学10周年を経験した我々は、さらに、大きく飛躍していかなければなりません。昨年には学部改組に着手し、この度の定員増を実現していくことで、さらなる改革を推し進めていく所存です。

2014年度(2015年3月卒)

就職率99.6%達成!

本学のスポーツ学を学びながら就職基礎力をはぐくめる体制により4年連続、99%を超える就職率を達成

厚生労働省より2014年度の全国大学就職率の平均が96.7%と発表されました。本学の就職率は、全国平均を7年連続で上回り、卒業生のほぼ全員が一社会人として就労しました。

とりわけ小・中・高校教員、地域社会の安全を守る警察・消防等の公務員に、2014年度は過去最高となる29名が就職し、これらの分野に学生を多く輩出しました。

1年次生から4年次生までもきめ細かく支援する教員・公務員採用試験対策と、卒業後の各種対策講座も実施しており、既卒生を含めると教員・公務員に採用されたのは2年連続で70名以上となりました。

民間企業への就職希望者への

対策講座には、社会人としてのマナー講座や卒業生を招聘した座談会形式のセミナー等を実施しています。その結果2014年度は上場企業に44名、スポーツ系企業に52名が就職しました。また全員必修のインターンシップ実習を通じて職業観の醸成とキャリア形成をはかっています。加えてスポーツクラブ活動や野外実習を通して培われる実践力や協調性、鍛錬された心身等が評価され、これら全学的な取り組みが高い就職率につながっていると考えられます。今後もキャリア教育の充実を図り、きめ細やかな就職支援を通じて、学生一人ひとりにマッチングする進路決定のサポートに努めてまいります。

副学長兼就職委員長 鳥羽 賢二



写真右端が豊田学部長

スポーツ開発・支援センター

地域と取り組む

元気作り!



びわスポキッズ

びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ開発・支援センターのテーマは「元気作り」。

地域の方々の健やかな生活を支援するスポーツ教室やイベントの企画、また地域スポーツクラブとの連携による地域住民の方々の健康促進やスポーツ文化の形成に、積極的に取り組んでいます。

そのなかでも、2009年7月にスタートしたびわスポキッズプログラムは、幼児・小学生低学年を対象に、大学生のキッズリー

ダーと運動遊びを通じて、思いっきり身体を動かすことにより、運動の楽しさを体感することが出来るプログラムです。また、運動の中で、スポーツセンス・スポーツマインドを磨き、小さいときからスポーツを好きになってもらうことを目的に、三つの事業を展開しています。

一つ目は、キッズ巡回指導です。大津市内を中心に年間約50箇所の幼稚園・保育園を、大学生のキッズリーダーが巡回指導



しています。スタートから5年半の昨年度までで、(大津市との事業も含め)延べ約1万人の幼児への運動指導を実践しました。

二つ目は、びわスポキッズフェスティバルです。滋賀県内の芝生のスポーツ施設で、4歳児から小学校3年までの幼児・児童を対象として、2014年度は5会場で開催。多い会場では200名以上が参加し、キッズリーダーと楽しい時間を過ごします。

三つ目は、キッズリーダー研修会です。

キッズリーダーの資質の向上のため、年間3回研修会を開催し、指導者としての知識と技術を習得するため研修を重ねています(2015年度キッズリーダー登録者数 311名)。

また、このびわスポキッズプログラムは、企業・教育委員会・体育協会など様々な団体から、事業へのご指導・ご支援をいただき運営されています。

全日本大学サッカー選手権大会

全国3位の好成績!

躍進遂げたサッカー部

サッカー部が目覚ましい躍進を遂げました。昨年12月の第63回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)で快進撃をみせて準決勝まで勝ち進み、全国3位の好成績を収めました。

関西学生リーグでは、14勝3敗5分けの勝ち点47で2位となりました。前年は5位で惜しくもインカレ出場を逃しましたが、今回は常に上位をキープしての堂々たる出場権獲得でした。

そのままの勢いでインカレに臨んだ「びわスポイレブン」は、初戦で前年準優勝の国士舘大を1-0で撃破。6年ぶり

2回目の出場で、これがうれしい選手権での初勝利となりました。続く準々決勝では全国レベルの強豪である福岡大を延長の末、1-1からのPK戦で下しました。準決勝では、優勝した流通経済大に0-4で屈しましたが、その実力を強くアピールする活躍でした。

前サッカー日本女子代表のコーチとして腕を振るい、指導力に定評のある望月聡監督の下で、チーム強化は着実に進んでいます。今春も1年生部員85人が入部して、部員数は261人に増えました。学生全体の中でも約2割にもなる大所帯は、本学でも注目の的です。「全国3位という結果に満足せず、進化していく」(望月監督)と、さらなる飛躍が期待されます。





大阪成蹊女子高等学校

～生徒募集をさらに拡大へ！～

☆女子高校 No.1の入学者数とキャリア教育

近年、大阪府内の女子高校は、少子化や共学化等の影響もあって年々減少しており、その過半数は募集定員に満たない状況です。そのような厳しい中で、大阪成蹊女子高校は、今年度も大阪府内の志願者数No.1の女子高校となりました。これで4年連続です。この輝かしい結果は、特色ある5つのコースの存在と、それを支えるキャリア教育の賜物であると考えています。本校の教育の柱であるキャリア教育は、建学の精神を踏まえた「女子に特化したキャリア教育」として、全国に先駆けて取り組んできました。1年生の全コースで学校独自の科目である「キャリアデザインα」を開講し、キャリア系コースでは更なる進化と発展のための積み上げとして「キャリアデザインβ」を2、3年生で実施して、自主的に将来を切り拓く力と、女性としての品格を有した人間力を育成しています。

その結果、キャリア教育の全国大会では、昨年度は全国一位のグランプリ賞に輝き、今年も1年生が最優秀人間ドキュメンタリー賞を見事受賞しました。成蹊生は、自発的な学びの姿勢を身につけ、よくがんばっています。このように、本校のキャリア教育は全国レベルであり、他校より一歩先を進んでいます。



☆グローバルなキャリア教育

キャリア教育の8年目を迎える今年、



社会の更なるニーズに応えるため、「グローバルなキャリア教育」として発展させます。当然のことながら本校の重点目標には、国際教育の充実と、使える英語力の向上が加わります。

来年度から、本校の国際交流は、
①すべてのコースでヨーロッパ修学旅行
②希望者対象のオーストラリア語学研修
③キャリア特進コースのニューヨークキャリア海外研修(新規企画)
④希望者対象の台湾国際交流研修の4企画になります。これまで修学旅行はクラス単位ではなく、個人の希望別に海外と国内を選択していましたが、現1年生からコース(クラス)単位でヨーロッパ2カ国を訪問する予定です。多くの生徒が、このプランを楽しみにしています。

また、新規に平成28年度より台湾の人



気校である金陵女子高級中学(中高一貫校)と交流します。この学校は生徒数2400名の大規模校で、日本人に馴染みのある有名な歌手のテレサ・テンさんの出身校です。台湾はたいへん親日的で、また、高校生の英語力も高く、今回は英語を使った5日間程度の国際交流を企画します。きっと、生徒たちはアジアを意識し、日本の国の良さを再発見できることでしょう。そして、6月にはアメリカ・ミシガン州からの留学生が5週間にわたり、2年生のクラスと一緒に授業を受けています。このような機会を通じて、成蹊生は日常の高校生活の中でも英語を使える機会がぐっと増えることになります。



☆ 使える英語力の向上

国際交流活動を支える観点から、今年から「使える英語力」の更なる強化を図っています。キャリア進学コースの1年生では英語の授業は習熟度別クラス展開を行い、個々の生徒の英語力に応じたきめ細やかな指導を実施しています。2年生の11クラスでは、少人数展開での外国人指導者(ALT)によるリスニング・スピーキングの授業も展開しています。今年赴任されたALTのモーガン先生は、高い指導力に加えて人柄もすばらしく、生徒たちに大人気です。複数の保護者から、3年生になっても是非モーガン先生に教えて欲しいという熱烈なご要望を頂いています。更に、学園として、世界規模で英会話学校を展開しているベルリッツ社と提携して、英会話無料レッスンが始まりました。現在、本校生対象に3講座を放課後に開講していますが、1クラス16名の募集に100名もの生徒が応募、生徒たちは英語にたいへん高い関心を持っています。そ

の他、エバーノート社と契約し、タブレット型PCを用いた英語自主教材配信システムも開発しており、ICTを活用した英語の学びも展開しています。「大阪成蹊女子高校に来れば、英語が好きになる」、そんな学校をめざします。このように、本校は長年の女子教育の伝統の上に立ちながら、進取の気風に満ちた新たな女子教育を推進しています。本校は、来年度も入学者数No.1の女子高校となることを目指し、この勢いを鈍らせることのないよう、全教職員で意欲的に教育活動にあたります。



☆平成28年度に向けた募集活動



本校は今年も大阪府内の女子高校で最大の志願者数となり、高い人気を維持しています。この人気は、5つのコースが、それぞれの特色を活かしたすばらしい教育内容を実践しているとともに、時代を先取りして教育内容を常に発展させていることが高く評価されていると言えます。

次年度も本校は発展します。募集活動もさらにバージョンアップしていきます。まず、美術・イラスト・アニメーションコースは、平成28年度より専門学科の美術科(設置認可申請中、募集定員は60名)に昇格する予定です。大阪

府内の私立高校では初の美術系専門学科になります。これにより、レベルの高い本校の美術教育はよりいっそう進化が期待できます。この美術科設置にともない、本校は2学科5コースで構成する総合タイプの女子高校へと発展します。

さらに、生徒募集数を、これまでの280名から340名に拡大します。これにより大阪府内の最大募集数の女子高校になります。今年は280名募集で445名の生徒が入学していますが、次年度にはさらに入学者が増えることでしょう。

募集広報企画室は中学生やその保護者に対して、本校の「前進し続けるパワー」をしっかりと伝えるべく、広報活動に日々全力で取り組んでいく所存です。

図書館通信

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学図書館は、正門を入ってすぐ左手にある赤レンガ色の建物の4階・5階に位置しています。閲覧室はアットホームな雰囲気、その所蔵冊数は約30万冊と、とても充実しています。従来の紙媒体の図書や雑誌だけでなく、電子ジャーナルや電子ブックなども、図書館ホームページから利用することができます。特に電子ブックは、学生の皆さんのニーズに応え、就職活動や英語学習に役立つ書籍を揃えています。

また、図書館では、2ヶ月ごとにテーマを変えて、旬な話題の図書を展示する「ミニ展示」や、就職活動の時期に合わせて、一般常識・時事問題対策、ビジネスマナーの習得、企業・業界の情報収集などの関連図書を紹介する「キャリア展示」を行い、学習や就職活動に役立つ情報を積極的に発信しています。

レポートや論文執筆のための調べものや自習など、学習の場として大いにご活用ください。探している資料が見つからない時などは図書館員に気軽に相談してください。喜んでお手伝いします。図書館はいつも皆さんにとって、一番身近な、便利で居心地の良い楽しい場所でありたいと願っています。



健康アドバイス — 熱中症 —



熱中症は、運動や暑熱から起こる体の障害の総称です。熱射病や日射病は、重症の熱中症のことで、生命が危険にさらされる可能性もあります。

人間の身体は熱の産生と放散のバランスをとることにより、体温を37℃前後に保つ仕組みがあります。しかし、気温が高くなると、発汗により汗が体表面から蒸発することで熱を放散することが唯一の体温調節の方法となります。汗は血液から作られ、塩分を含んでいます。また、身体活動により体内での熱産生が増加します。

暑い所での作業や運動により身体の熱が十分に放散できなくなると、神経系や循環器系の障害をきたし、様々な症状が現れます。気温が24℃以上で熱中症に対する注意が必要で、35℃以上では運動は中止してください。プール・水遊びや屋内でも熱中症は起こります。熱中症による事故は予防や早期発見と適切な対応により未然に防ぐことができます。

- ・体調のすぐれない時は無理をせず、休みましょう。
- ・喉の渇きを感じる前に少量ずつ頻回に水分補給をしましょう。
- ・水分補給ではスポーツ飲料など食塩と糖分を含んだ飲料を摂取しましょう。
- ・身体の異変を感じたときは直ちに運動を中止し、涼しい所で休息・水分補給をしましょう。

保健センター長 羽藤 文彦

熱中症の重症度分類(日本神経救急学会による)

Ⅰ度 (軽症)	症状	めまい、立ちくらみ、気分が悪い、手足のしびれ、こむら返り(筋肉の痛み、硬直など)。
	対応	日陰で休む。水分補給。衣服を緩めるとともに体を冷やす。
Ⅱ度 (中等症)	症状	頭痛、吐き気・嘔吐、体のだるさ、力が入らない。
	対応	病院にかかり補液を受ける必要がある。
Ⅲ度 (重症)	症状	返事がおかしい、痙攣、まっすぐに歩けない、体が熱い、意識喪失。
	対応	救急車で救命医療を行う医療施設に搬送し入院治療の必要がある。

動物とふれあう 写生会

教育研究支援センター

5月31日(日)に、相川キャンパス構内のサンパティオに移動動物園を招き、「動物とふれあう写生会」を開催しました。

お天気にも恵まれ、当日は地域の方々や短期大学附属こみち幼稚園の園児とその保護者の方々を含め、1800名近くの来場者の方にご参加いただきました。

動物ふれあいコーナーでは、ひよこやうさぎ、犬や猫に触れたり、ヤギやアヒルにエサをあげられることもあり、終始子どもたちに大人気でした。

受付で画用紙をもらった子どもたちは、クレヨンや絵の具で思い思いの写生を楽しんでいました。作品講評コーナーでは、子どもたちが描きあげた絵に対して芸術学部の教員や学生が丁寧にアドバイスし、子どもたちもとても嬉しそうでした。

短期大学附属こみち幼稚園のコーナーでは、「くるくるたこを作ろう!」のワークショップが行われ、たくさん子どもたちが参加したほか、未就園児にはどうぶつふうせんのプレゼントもありました。



本イベントは芸術学部科目「ボランティアアスタディ」を受講する学生が主体となっており、実施運営に取り組んできました。また、大阪成蹊女子高等学校幼児教育コースの生徒も当日のスタッフとして参加しました。イベントの運営、子どもたちとのふれあいなど、イベントを通じ、アートと地域の関わりについて多くのことを学びました。

相川での写生会は今年で4回目となり、地域の方々に毎年楽しみにしていただけのイベントとなってきました。今後も、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学では「動物とふれあう写生会」をはじめとした地域貢献に取り組んでまいります。



大阪成蹊短期大学附属 こみち幼稚園

こみち幼稚園には、毎年、教育実習、観察実習、インターンシップ、体験学習などで、本学の多くの大学生や高校生がやって来ます。また、同じ井高野地区の中学校からも職業体験として、多くの中学生も訪れます。昨年度は園長に就任して初めての年であったこともあり、その受け入れ人数の多さと、日々の賑やかさに驚くばかりでした。それらは特に第一保育期の5月末から6月末にかけて、幼児がようやく園生活に慣れ、担任との信頼関係に支えられて、自分のことを自分でやっていたころに集中しており、多くの大人(学生や生徒)が身近にいて、手が行き届き過ぎてしまい、かえって芽生えてきた自立心が一休みしてしまう様子が見られることがあります。また、次々と見知らぬ大人がやってくることで、不安定になる幼児も出てきます。「実習園とはいえ、これは大変!」と心の中で葛藤していたことを思い出します。

しかし、そのような中でも、子どもと学生とのほのぼのとした関わりの場面を目にすると、気持ちが穏やかになっていきます。幼児の誰かに受け止めてほしい気持ちを察して、「〇〇ちゃん、どうしたの?一緒に遊ぼう」とさりげなく学生が誘いかけ手を差し伸べると、ずっと手を繋いで嬉しそうな顔で出かけていく姿。

また、保育実習指導を懸命に行う学生の熱意に引き込まれ、その周りに集まっ

幼児から学ぶ ～子どもと学生で おなす生活を通じて～



て新しい経験を重ねていく幼児の姿。学生は幼児から、保育者としての関わり方や、幼児の心に寄り添う保育を学び、幼児は学生から新しい遊びを経験する機会を得たり、寄り添ってくれる学生がいることで安定した気持ちになったりする等、共に生活をする中でお互いが成長していきます。出会う人や機会が多ければ、それだけ学び合うチャンスも多い、と考えると、たくさんの学生や中高校生を受け入れているこみち幼稚園の存在の意義は大きいと思えるようになりました。さらには指導をする担任教員にとっては、学生の指導をすることを通して自分自身の保育も見直し、再構築する機会にもなっています。若い教員が学生と共に、幼児から学ぶ姿も大切にしたいと思っています。

今年度も、短期大学幼児教育学科2回生の2週間の実習が終わりました。幼児教育の明日を担う学生の皆さんが、こみち幼稚園で子ども達から学んだことを大いに活かして、来年の今頃は現場の保育者として活躍することを願っています。

こみち幼稚園 園長 東藤 弥生



韓世大と国際交流



2015年2月16日(月)、大阪成蹊大学の協定校である韓国の韓世大と国際交流

2014年度学位授与式で、本学園石井茂理事長に名誉経営博士号が授与されました。今回の名誉経営博士号は、石井茂理事長が、日本の金融界において経営戦略、人事戦略、企画分野で卓越な業績を収めたことと、少子化が進み大学全入時代となった日本の大学教育界において、短期間で教育の改革を行った実績が評価されたものです。授与式当日、韓世大卒業生に対して、石井茂理事長が、大阪成蹊大学と韓世大と国際交流についてスピーチを行いました。

また、2015年4月17日(金)、韓世大の金聖恵総長を本学にお招きし、グローバル教育プログラムの推進、独創的な教育プログラムの実践、国際交流の拡大等、教育改革で業績を上げられたことを称え、大阪成蹊大学より功労賞(国際交流)を授与しました。

授与式終了後、金聖恵総長による講演会が行われ、本学の学生約400名が聴講しました。「How to live? ～金聖恵総長の幸福論～」のテーマをもとに行われた講演は、人がどのように生きるべきなのか、幸福の価値とは何かを題材にされ、学生たちに問いかけながら熱くご講演いただきました。常に人に感謝し、他人と分かち合う人になることが幸福になる道であり、幸せを自ら引き寄せる人になろうという金聖恵総長のお考えが伝わる講演でした。

梨花女子大学、マンハッタン音楽大学でピアノを学ばれた金聖恵総長は、講演の後、フランク・リスト作曲の「エステ荘の噴水」を演奏され、学生たちは優雅なひとときを過ごしました。



また、同日には同行された韓世大教授と本学教授との間で国際交流会議が行われました。マネジメント学部では、「ICTの活用とビジネス革新」をテーマとしたICT先端企業の見学について、芸術学部では、「デザイン現場の視察ツアー」など、海外研修プログラムについて意見交換が行われました。

この国際交流会議を受けて、現在、今年度の学生間交流プログラムが検討されています。秋には韓世大より視覚情報デザイン、空間環境デザイン、テキスタイルファッションデザインの3専攻より約30名の学生が本学を訪れ、展示会や企業訪問等の学生間交流プログラムが予定されています。今後、両校の関係をさらに深めていきます。



OPEN CAMPUS



オープンキャンパス日程表

大阪成蹊大学
&
大阪成蹊短期大学

学部・学科紹介、キャンパス見学、入試相談、学生生活紹介、就職支援紹介などさまざまなイベントを準備しています。3年生の皆さんはもちろん、2年生・1年生のみなさんもお気軽にご参加ください。
皆さんのお越しをお待ちしております！

PHASEⅡ
大阪成蹊の入試を知ろう！
7/12(日) 19(日) 26(日)

PHASEⅢ
大阪成蹊に決める！
8/2(日) 16(日) 23(日)

入試チャレンジオープンキャンパス

9/27(日) 12/20(日)

7月・・・ 9：45～15：00
8/9/12月・ 10：00～15：00
(受付開始9：15)

びわこ成蹊スポーツ大学

びわこ成蹊スポーツ大学ってどんな大学？スポーツ大学の日常ってどんな様子？卒業後の進路は？そんな疑問を解決することができる全体説明会を開催。キャンパスツアー、クラブ見学、進学相談コーナーなど、きめ細かくご案内します。無料のランチもあります！

7/18(土) 26(日)

8/23(日) 9/5(土)

9：30～15：00
(受付開始9：00)

OPEN SCHOOL

オープンスクール日程表

大阪成蹊女子高等学校

学校全体についてや、入試制度・特待生制度についての説明の他、5つのコースについて詳しくご案内します。また、校内施設、クラブ見学も実施。個別の質問や相談にもお答えします。

説明会の後は、お菓子と飲み物もご用意。オリジナルグッズのプレゼントもあります！ご来場お待ちしております！

8/22(土)

9/26(土) 10/24(土)

11/7(土) 28(土)

12/12(土) 19(土)

13：30～16：30

★8/22(土)のみ10：00～13：00

高大連携

多様なメニューで実施

教育研究支援センターでは、平成27年度から高大連携の取り組みを推進しています。大阪成蹊学園が提供する高大連携事業は、

- 1) 課題解決力の育成
- 2) プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など社会人基礎力の育成
- 3) 情報収集力、企画力の育成
- 4) グローバル人材の育成

を目指し、各学部・学科・コースの特色を打ち出した授業を提供しています。北摂地域の高校を中心に4月からご案内を始めたばかりですが、すでに60の授業の実施が決まり(6月23日段階)、現在も連携授業の提案が続いています。

5月上旬には、大阪成蹊短期大学幼児教育学科ならびに大阪成蹊大学芸術学部による、高大連携授業が実施されました。

幼児教育学科では、画用紙を使って鳥や象を作るペーパークラフトの体験を通じ、紙の特性や切り方などのコツ、子どもたちと楽しく授業を行う方法を伝えました。芸術学部テキスタイル・ファッションデザインコースでは、3種類のシルクスクリーン型を使い、トートバックに色をつける体験実習が行われました。芸術学部インテリア・プロダクトデザインコースでは、ホワイトメタルを使った簡易鋳造のワークショップを行い、自分のインシヤルなどをデザインしたプレートを作りました。



▲子どもが喜ぶ動物やキャラクターをペーパークラフトでつくる(幼児教育学科)



▲ホワイトメタルを使った簡易鋳造(インテリア・プロダクトデザインコース)

高校生のアンケートから、「シルクスクリーンプリントという普段体験できないことが体験できてよかった」、「はじめてホワイトメタルを使った工作を体験できた」と自分で作る体験授業が楽しかった

ようです。

今後も、高校生が、大学での学びの楽しさを実感できる授業の提供を出来る様に推進していきます。



▲トートバックにシルクスクリーンプリントでデザイン(テキスタイル・ファッションデザインコース)

大阪成蹊アート&デザイン
コンペティション2015

大阪成蹊学園では、未来のための人材発見を目的として、大阪成蹊大学芸術学部、大阪成蹊女子高等学校美術・イラスト・アニメーションコースとの共催による「第5回大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション2015」を開催します。また、授賞式を11月21日(土)に開催し、受賞作品を学内ギャラリーにて11月21日(土)～12月6日(日)の間、展示・公開いたします。

テーマ
未来への発信

募集期間：平成27年9月1日(火)～10月8日(木)

対象：【高校生の部】

国内に在住する高校生

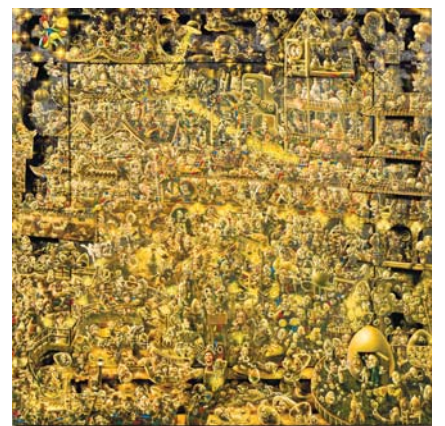
【中学生の部】

近畿圏内(大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重)の中学生

詳細：HP(URL http://univ.osaka-seikei.ac.jp/newsentry/2015_1/index.html)



受賞報告



美馬匠吾さん(1年生)作
『ハードボイルド探偵』

第1回国際芸術コンペティション「アートオリンピック2015」(世界52カ国4186点応募)学生の部において、大阪成蹊大学芸術学部 美馬匠吾さん(1年生)の作品「ハードボイルド探偵」が銀賞および審査員特別賞を受賞しました。美馬さんは昨年、大阪成蹊学園が主催する「第4回アート&デザイン・コンペティション」高校生の部で大賞を受賞。この4月より本学芸術学部に入學し、現在も制作活動に励んでいます。